

前回 7 月 22 日の例会記録

出席の状況

会員数 52名（内出席免除 3名） 出席者数 38名 欠席者数 14名

出席率 76.00% 前々回訂正 92.00%

欠席者 原, 原田, 位田, 梶谷, 永見, 大賀, 末吉, 高橋(裕), 高倉, 竹本, 丹治, 槌田,
(平野), (柏野)

会長報告

会長 横山 俊彦

旧ひな壇の皆様、1年間クラブのお世話をして頂き、ありがとうございました。クラブ細則の改定は大変だったと思います。現状に合うように改定して頂き、これで当分は大丈夫です。野球部も創部して下さいましたし、何よりも後半は会員増強にも力を入れて下さり、今年度に向けてはずみがつきました。他にも竹内先生を招いての講演会や、スマイルの目標達成などその実績は数え上げるときりがありません。今年度はこれらの実績を引き継ぎ、会員の皆様と一緒にグローバル補助金の申請という目標に向かって進んでいきたいと思っています。本当に1年間ありがとうございました。

例会プログラム

旧ひな壇慰労夜間例会

7月22日(月)18時30分より市内「みつば」において、「旧ひな壇慰労夜間例会」が行われました。

当日は多くの皆様にご出席頂き、西山直前会長をはじめとする旧ひな壇の皆様の思い出話・苦労話などをお聞きしながら、大いに語りあいました。

旧ひな壇の皆様は本年度それぞれの新しいお立場で、またご指導ご助言頂けると思っております。一年間大変ありがとうございました。

また、夕方より雷も轟く豪雨となりましたが、例会が始まるころには小降りとなり、これも単に旧ひな壇の皆様の昨年度の「おこない」による力だと皆で感じながら閉会となりました。

P.S 店内が暑くなり過ぎまして皆様大変ご迷惑をおかけしました。

申し訳ございませんでした。





クラブ情報

メイキャップ

幹事 山田 喜 広

去る7月23日、岡山城ロータリークラブにメイキャップを小菅副幹事と行って参りました。

会員の出席率が毎回90%程あり素晴らしいクラブでありました。

今後も他クラブに訪問し参考にしていきたいと思ひます。

寄稿文「北関の山を訪ねて」

平成25年7月13日～15日 岡村秀男 川西熊雄 岡本和夫・晶子

富士山が世界文化遺産に登録され、折からの登山ブームにさらに拍車がかかることが予想されるなか、我々中・老年登山愛好家は、温泉付き山登りに北関の那須岳と赤城山を選んだ。高橋峯男会員は家庭の都合で急遽不参加となり、4人で出立した。

東京駅から東北新幹線「やまびこ」に乗り、約1時間10分で那須塩原駅に到着した。那須野ヶ原は那珂川(なかがわ)、蛇尾川(さびがわ)と箒川(ほうきがわ)が形成する扇状地であり、水利が悪く、開発は疎水が引かれた明治以降のことである。華族農場を中心に開拓地が開かれ、今や首都圏近郊の一大リゾート地となっている。また白河口と山王口を通して陸奥との連絡路をなしていた。レンタカーは扇状地上をゆっくりと高度を上げながら走っていった。外気温は17～18℃である。初日の宿はツインタワー状の大リゾートホテルであった。眼下には鬱蒼とした森が広がり、温泉と豪華なバイキング形式の夕食を楽しんだ。

那須岳は通常茶臼岳(1915m)、朝日岳(1896m)、そして岩代(会津藩)、磐城(白河藩)、下野(黒羽藩)の三国境をなす三本槍岳(1917m)でその中枢部を構成している。那須火山帯にその名を冠している。翌朝、茶臼岳と朝日岳の頂上付近に重い雲がかかり天候が危ぶまれたが、予定のロープウェイ山麓駅をめざして出発した。小雨混じりの天気にもかかわらず、ロープウェイを利用して茶臼岳をめざす人が多く、駐車場は満杯、さらに空を待つ車で道路は溢れんばかりであった。急遽登山ルートを変更し、峠の茶屋から避難小屋を経て茶臼岳登頂を果たすことにした。右に「にせ穂高」の異名を持つ朝日岳を見上げながら、徐々に高度をかせいでいった。天気は益々悪くなる一方で、避難小屋は多くの登山者で入りきれないほどであった。岡村氏を小屋に残し、三人で主峰の茶臼岳をめざした。西斜面から噴煙の上がるのが見えていたが、しだいに雨混じりの強風が吹き始め視界不良となっていた。黄色のマークを頼りにして時計回りに高低差188mを歩くこと約1時間、やっとの思いで頂上の那須岳神社の祠に到達した。登山者は数えるほどしかおらず、記念写真のあとそそくさと下山を開始した。左前方から頬を叩く風雨に見舞われ、あらためて山の怖さを感じ知った。当然のことながら朝日岳の登頂は断念し下山した。

二泊目の宿の伊香保温泉郷をめざし、東北道、北関東自動車道を走った。岩舟JCTから西に延びる北関東自動車道はいわゆる「両毛」地域を走っており、渡良瀬川をはさんで東西に対峙した足利尊氏と新田義貞が、南北朝期の歴史の表舞台に登場してくる。伊香保温泉は榛名山系の二ッ岳(1344m)の北東斜面に位置し、「石段街」として有名である。ひと風呂浴びたあと石段街を散策した。

最終日は渋川市街を抜け、利根川を渡り、赤城山の山麓をゆっくりと走りながら、大沼湖畔に達した。晴れてはいるものの雲は東方向へ速く流れており、頂上での眺望が不安視された。黒檜山登山口(1369m)から標高差459mを約2時間かけて岩の露出した急坂を登って行った。途中「猫岩」あたりから右眼下に大沼、赤城神社が見えるようになり、涼風とも相俟って心地よくなってきた。黒檜山頂上(1828m)から東には栃木、茨城方面の関東平野が広がっていたが、日光連山や上越国境の山々は樹木と雲に遮られ見ることはできなかった。南の駒ヶ岳へ下る道からは、広々と展開する関東平野のかなたに富士山、東京スカイツリーが見えてきた。「海なし県」の栃木、群馬は、温泉、広大な平野を俯瞰できる山並み、そして豊富な農作物に恵まれており、まさに首都圏の後背地として、豊かな自然と憩いを持ち合わせた土地柄であろうと想われた。高崎駅から上越新幹線「Maxとき」に乗り、暑い東京を経由して岡山へ帰ってきた。



例会情報

本日のメニュー（7月29日）

八寸（辛子明太子 瓢亭玉子 新丸十赤砂糖焼 牛肉野菜巻黄身揚げ 鱈木の芽焼 甘長獅子唐焼浸し 枝豆塩茹で）
御造り（鮪 炙り紋甲烏賊 芽物一式 昔醤油）
焚合せ（鰻凍り豆腐含ませ 南瓜旨煮 小芋白煮 季節の青身 木の芽）
小鉢（水晶茄子谷中ジュレ掛け 糸花鰹） 御飯（岡山県産こしひかり） 赤出汁 香物（三種）

次のメニュー（8月5日（ヘルシーメニュー））

鯛と帆立貝のポワレ オリーブ、トマト、バジリック、柑橘の香りを利かしたアンティボワーズ
季節のサラダ シェフ特製デザート コーヒー ホテル特製パンとバター